宮崎敏夫さんの定年退職を惜しんで

酒　井　彦　一（生物化学教室）

昭和54年の12月に，それまで理学部３号館のボイラー技師だった笹原さんの後任として宮崎敏夫さんが３号館に初めて来られたときは，随分穏やかな人だなあという第一印象を持ったことを覚えています。これは10年経った今でも変っていません。東京美化株式会社の業務部技術課から東京大学理学部に移られた敏夫さんは，12月から３月迄の冬期は３号館のボイラー技師として地下室のボイラー運転とその維持管理に努力され，３号館の縁の下の力持ち的存在でした。10年間，暖房に関しては３号館のどの部屋からも苦情が無かったのは，ボイラーの管理に敏夫さんが如何に細心の注意を払っておられたかをうかがわせるものです。大変ご苦労様でした。３号館の皆さまに代って厚くお礼を申し上げます。

ボイラーの仕事の合間を含め，４月から11月の期間は，生物化学教室の郵便物の処理や，講義室，会議室の整備に欠かせない人でした。それとともに，３号館の全ての人たちが恩恵を蒙っていたのは，廊下や居室のタイル修理や蛍光灯の取替え，細かな電気修理，モーター管理，３号館周囲の清掃など，数え切れないものがあります。

敏夫さんは，また，自然を友とする豊かな心をもっておいでです。それとなく３号館の周りに花があり，木が植えられ，ゆとりを与えてくれます。或る日，３号館の東側非常口脇の，通称敏夫花壇に芙蓉が咲き誇っているのを眺めて，その手入れの良さに感じ入ったものです。これは３号館のなかで廊下のタイルの破損が，それとなく，いつの間にか修理されていることと一脈合い通ずるものがあります。また，同じ職場の中で，配置転換で出入りする仲間の歓送会や歓迎会では，終始寡黙ながらなごやかな雰囲気を絶やしません。その誠実で，責任感の強さが，ボイラーという縁の下の力を生み出しているものと推察しています。

最後に，敏夫さんが如何に勤勉家であるかを御紹介したいと思います。敏夫さんは昭和52年に二級ボイラー技師免許を取得しましたが，その後研鑽を重ね，60年に一級ボイラー技師免許を取得しました。更に，３年後に，東京都三級公害防止管理者の資格とともに，危険物取扱者乙種の免状を取得するなど，大変な努力家です。家庭は奥様と息子さんが二人で，敏夫さん自身は大の小鳥好きで，“ピーちゃん”が容体が少しでも悪いと，“入院”させる愛鳥家と聞いています。このように自然を楽しむ敏夫さんには，これからは益々自然に親しむ機会が多くなるのではないでしょうか，また，それを願っています。ただ，３号館住人一同としては，この４月から敏夫さんの姿が３号館で見られなくなるのは残念でなりません。どうも長い間ご苦労様でした。